

## 令和6年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

「自律、鍛錬、信愛」の校訓のもと、「豊かな心と健やかな体で、学問・スポーツ・芸術に打ち込み、志を高く、世界を見つめる人間を育てる」という本校の教育目標を達成するため、「進路目標の実現」と「社会性の育成」を柱とした教育計画の中から、今年度、重点的に取り組む5項目の課題を設定した。これらの課題の解決に向けた方策と達成目標を具体的にした「アクションプラン」を、全校生徒には1学期の終業式後に説明し、保護者には1学期保護者会で配付して、生徒の意識を高めるとともに保護者の協力を得た取り組みとなるよう努めてきた。

#### (1) 学習活動（学習指導）

「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業に対して、主体的に学習に取り組んだと自己評価できた生徒の割合が60%以上を目標にしたところ、73.5%の達成率となった。年に2回行う互見授業期間で3回以上の授業参観で意見交換を行うことで、各教員の授業へ工夫や研究成果が発揮できている。また、ICT環境が充実し、協働学習の促進、インタラクティブな教材の活用をするなど、ICTの効果的な活用を行ってきた。アンケートでは「授業は興味がわき楽しい」と49.7%、「授業わかりやすい」76.9%と前年度より増加している。しかし、家庭学習時間が少なく、学習内容の定着につながっていない。

#### (2) 学習活動（国際理解教育）

全校生徒対象に毎朝5分間実施するSET（Short English Time）プログラムは、91.2%の生徒が一生懸命に取り組んだと回答している。リスニング効果が高く、各種検定試験の結果からも高い数値が出ている。また、第2外国語の学習でも91.9%程度の生徒が意欲的に取り組んでいる。訪問校との交流を通じて日本の文化や学校の魅力を発信、地域との交流、オンラインでの友好校との交流、国際交流に関する情報発信など校内外で行われる様々な活動に活かされている。地域の方々には、海外文化講演会で海外勤務の体験談を聞いたり、韓国、ロシア、中国の料理を作って食べる体験学習を企画したりした。

#### (3) 学校生活（生徒指導、保健衛生）

モラル意識の向上に心がけている生徒の割合は、「服装や身なり」が96%、「時間を守る」が96%、「公共の場でのマナー」97%、「挨拶の励行」98%で、目標の95%以上を上回ることはできた。毎学期、生徒に表彰するスーパーモラルの顕彰制度や全校集会を通して、マナー意識を考えて行動することができた。また、PTA活動を通して、保護者の協力・理解を得て、生徒が相互にモラル意識を高めあうことにつなげることができた。

清掃活動では昨年度と比較し、清掃に真面目に取り組んだ生徒が95.8%と上昇した。また、健康的な生活を意識している生徒は99%に上り、日常的に運動、食事、睡眠などの生活習慣を身につけるため、健康的な学校環境を整備するとともに、文化祭や保健委員会などを通して健康管理の重要性を認識させている。

#### (4) 進路支援

職業ガイダンスや高大連携事業を本校で開催したり、2年次にオープンキャンパスや体験授業、インターンシップ等に積極的に参加したりして、早期に進路意識を高め、進路目標を明確にさせる取り組みを行った。自分の進路に満足している生徒の割合は98.4%に達しており、その中でもとても満足のいくと回答する者が62%であった。自己実現に向けて努力してきた生徒の満足度の高さが分かり、学校でのきめ細かい指導が一定の効果を上げていると考える。

#### (5) 特別活動（地域交流活動と読書指導）

地域活動への積極的な呼びかけにより、高い参加率を維持し、地域交流活動が生徒にとって有意義な体験となっている。地域の課題に生徒が自ら気づき、行動できるようサポートする体制が整っていることは、生徒の主体性や問題解決能力の育成に繋がっている。

生徒の読書体験が少ないという課題に対し、図書委員会の活動を活性化させ、広報活動や図書館の環境整備、朝読書の推進など、多角的なアプローチで読書活動を促進した。朝読書に積極的に参加できた生徒の割合が78.9%と高く、学級文庫の設置や図書委員による呼びかけが効果的に機能した。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

学習指導では、授業改善の継続を図ることと生徒の家庭学習時間の確保、学習内容の定着が必要である。家庭学習の習慣化を促すために教材やツールの提供を考えたり、互見授業等を実施した後に具体的な改善策を話し合う時間を設けたりする。これらの取組により、学習意欲と学力向上、そして教員の授業力向上につなげたい。

国際理解教育では、国際交流プログラムの持続可能性の確保、新たな研修方法、第2外国語の学習意欲を喚起、SETプログラムの継続的な実施、効果的な情報発信の強化など学習体制を確立する。

進路指導では、生徒の進路選択と進路決定の質を向上させ、生徒一人ひとりが満足できる進路実現に繋げていく。

地域交流活動では、地域との連携を深め、生徒が社会との繋がりを深く理解できるような機会を設けることや生徒が企画・運営する活動を増やし生徒の主体性を高めることで活動の意義をより深く理解することにつなげたい。

読書指導では、図書委員会の活動を活発に行い、生徒の意見やアイデアを盛り込んだ広報活動を継続していく。今後も、読書活動の多様化やICTの活用などを通して、生徒の読書体験をさらに豊かにすることで、読書を愛する生徒を育成していくことができる。